

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの「知って得する最新情報」をお世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発行のDDK通信、ぜひお楽しみください。

企業向けIP電話(IPフォン)システムとは？

IP 電話という言葉を知ると、ひかり電話などをイメージされる方が多いと思います。

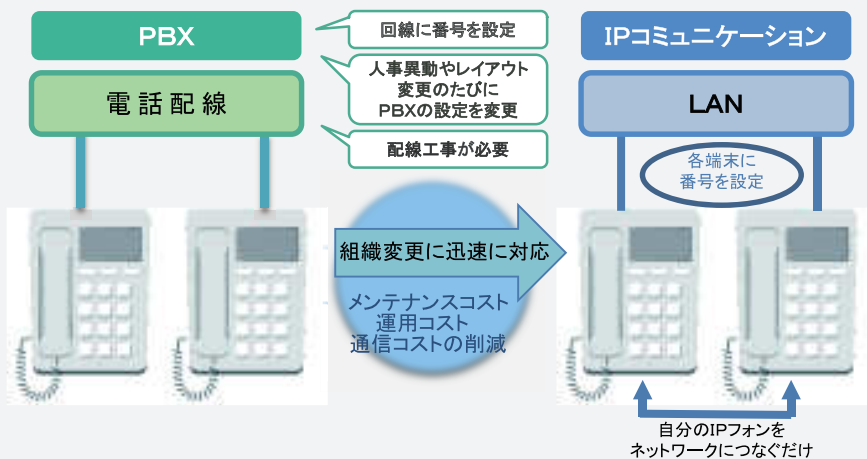
しかし IP 電話とはこのような外線を意味するものと、システムを意味するものと 2 種類あります。

今回は IP 電話システムについてご紹介したいと思います。

従来の電話設備は電話用ケーブルを利用し構築していたのに対し、IP 電話システムは LAN ケーブルを利用し構築します。

IP 電話システムの特徴は、企業内の通信インフラをデータ通信のネットワーク(構内 LAN) に統合することで通信網の運用管理の一元化ができることです。

また事務所内のレイアウト変更などによる移動時の移設工事も不要です。最近ではソフトフォンの利用や PC 端末との融合によりアプリケーションなどと合わせたビデオ会議、プレゼンス状況(在席)の確認などといった機能も注目されています。



便利で経済的なシステムである一方で、デメリットもいくつかあるのが現状です。

まず、システム停止のリスクが高まることです。

従来の電話設備と比較すると IP 電話では HUB などの機器を中継するため、機器停止の危険が高まります。また電話も PC も同一ネットワーク上にシステムを構築するため HUB 等にトラブルがあった場合に全停止し、通信手段がなくなってしまうことになりかねません。

また、IP 電話として利用できる電話機の端末は従来よりも限定されてしまいます。今まで利用可能であった市販の電話機等もご利用頂けなくなってしまいます。

しかしながら今まで別々に管理していたシステムの一元的により、管理部門を一つにすることができるとや、本社・支社間の通信費の削減が可能であることなど、お客様の組織形態によっては最適なシステムになり得ます。

一度ご検討されてみてはいかがでしょうか。

